

北塩原村

共に歩みみんなで創る

～村制施行70周年記念～
令和6年7月 北塩原村



Contents

- 03 発刊によせて
- 04 村の概要
- 06 村のあゆみ
- 16 村づくり
- 19 データで見る北塩原村
- 26 記念ロゴマーク・
キャッチフレーズ

発刊によせて

北塩原村長 遠藤 和夫



昭和29年3月31日に、明治22年の町村制施行以来続いた「北山村」、「大塩村」、「檜原村」の三ヶ村が合併して、「北塩原村」が誕生し、新しい村としての歩みをスタートしました。

本年はその合併から70周年を迎えました。現在の姿がありますことは、歴代村長のお導きと、村民の皆様が築き上げてきた努力の賜物と深く感謝を申し上げます。

さて、この70年を振り返りますと、昭和40年代に3つの観光有料道路が開通し、裏磐梯を観光する人の流れができ、その後、現在の国道459号が開通し、村民生活の安全安心や村内の交流が進みました。そして、スキー場や道の駅などの開業に伴い、新たな人とモノの流れが出来たことにより、農林漁業、観光など産業の振興が進展しました。

観光地として確立した裏磐梯には、天皇陛下をはじめ、皇族の方々が数多くご来村され、国際会議や全国大会の誘致、豊かな自然を満喫できる各種イベントの開催により村の知名度が高まりました。また、全村での上下水道の整備、教育環境、健康増進、文化交流施設の整備や農林漁業や観光、商工業などの産業振興によって、村民の生活が向上しました。

先の東日本大震災により、本村においても住民生活の安全安心、農林漁業や観光業などの産業が大きな被害を受けました。さらに、新型コロナウイルス感染症に対しては、令和3年度からワクチン接種が開始され、南東北裏磐梯診療所や喜多方医師会及び喜多方市と連携した接種体制を整え、個別接種や集団接種を実施し、村民の命と健康を守りました。新型コロナウイルス感染症は、村の基幹産業である「観光業」に大きな打撃を与えました。

20年目を迎えた東京都杉並区との「まるごと保養地協定」、沖縄県東村との友好交流協定、東京都杉並区を中心とする自治体スクラム支援会議における災害時相互援助協定、大玉村との災害相互援助協定、日本ジオパークネットワークなど、交流自治体の輪と絆によって、村の復興を支えていただきました。

さらには、きたしおばら大使の小椋佳様、普天間かおり様、佐藤敦之様、菊池日出子様、榎本隆充様の各氏におかれましては、村のPRや情報の発信に大きな貢献をいただきました。多くの方々の支援、協力を支えられながら多くの困難を乗り越えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

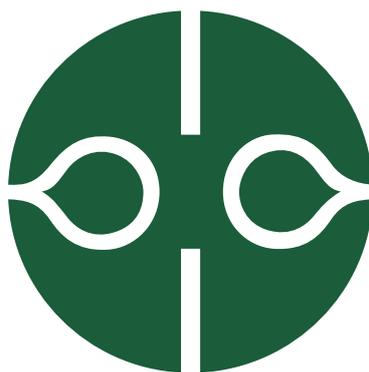
東日本大震災と原発事故からの復旧・復興には、廃炉や風評・風化など、今なお課題が残っていますが、着実に前進してまいります。また、新型コロナウイルスにより減少したインバウンドを含めた観光入込客数が、一刻も早くコロナ前の水準まで回復するよう対策を講じてまいります。

村は、人口減少問題に対し、「自然を活かす、文化を活かす、人を活かす」をスローガンに、みんなで考えみんなで前へ、知名度の向上を図り、行きたい村から住みたい村へと、選ばれる村を実現し、人口減少の課題を克服します。

そして、村民のいのちと暮らしを守り、村民の幸福の実現に向け、引き続き村づくりを推進してまいります。

村民の皆様ならびに関係団体の、益々のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、記念誌発行のごあいさつとさせていただきます。

北塩原村



村章 (昭和49年3月、公募により選定)

北塩原村の「北」の文字を図案化したもので、全体の円は住民の協和を、北の中心が接しているのは団結を、左右の円は未来を目指し発展を象徴する。

村の花



「ミズバショウ」
(昭和56年制定)

村の木



「オオヤマザクラ」
(昭和56年制定)

村の鳥



「シジュウカラ」
(昭和56年制定)

村民憲章

1. 自ら学び、
魅力ある村をつくりましょう。
2. 文化を育て、
豊かな村を作りましょう。
3. 心のふれあいを大切に、
明るい村をつくりましょう。
4. 豊かな自然を愛し、
美しい村をつくりましょう。
5. 健康で心身を鍛え、
活力ある村をつくりましょう。

(昭和60年12月23日制定)

磐梯山憲章

1. 磐梯山の自然、
歴史、文化を学び、よく知ろう。
2. 磐梯山の恵に感謝し、
活かし、人との共生を図ろう。
3. 磐梯山の自然環境を守り、
適正な利用に務めよう。
4. 磐梯山に畏敬の念と
誇りを持ち、後世に継承しよう。
5. 磐梯山のために、
一人一人が自ら考え行動しよう。

(平成22年9月21日制定)

村の地勢

福島県の北西部に位置し、総面積は234.08km²で、東西22.5km、南北19.3kmに渡っている。

標高200~300mの北山地区、400~500mの大塩地区、800~1,000mの桧原・裏磐梯地区に分かれ、面積の約86%を山林が占めている。気候は北日本型の積雪寒冷地帯であり、北山・大塩地区は盆地型気候、桧原・裏磐梯地区は夏涼しく冬は雪深い山地特有の気候となっている。

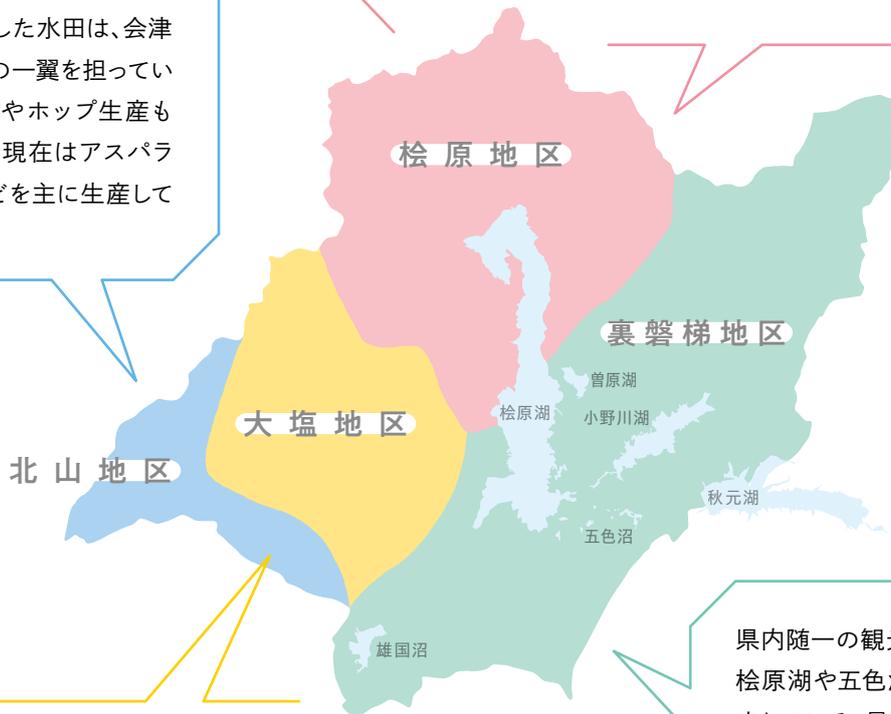
高曽根山に源を発する大塩川が大塩・北山地区を縦走し、流域には圃場が整備され、田園風景が形成されている。桧原・裏磐梯地区においては、明治21年(1888年)の磐梯山噴火により吾妻川、大川入川、小野川、中津川などが堰止められ、桧原湖、小野川湖、秋元湖のほか、曾原湖、五色沼など大小300ともいわれる湖沼群を生み、磐梯山をはじめとする周囲の山々とあわせて美しい自然景観をつくりあげ、昭和25年に磐梯朝日国立公園に指定された。

北山地区

会津五薬師の一つである北山薬師が地名の由来とされる。北山薬師は漆薬師ともいわれ、弘法大師によって建立されたと伝えられる。2歳児の無病息災を祈願する「二つ児参り」は、会津各地から訪れる。基盤整備が完了した水田は、会津地方の稲作生産の一翼を担っている。以前は、養蚕やホップ生産も盛んであったが、現在はアスパラガス、キュウリなどを主に生産している。

桧原地区

江戸時代は、会津米沢街道の重要な宿場町として栄えた。標高800メートルを超える早稲沢地区は、高原を活かして、大根やとうもろこしなどの高原野菜の生産が盛んである。時期になると、直売所には、毎年大勢の観光客が訪れ、採りたての野菜を買い求めている。温泉民宿が立ち並び、スポーツパーク桧原湖では高校、大学、実業団の陸上部などの合宿も盛んに行われている。



大塩地区

弘法大師に由来する温泉地として親しまれ、長年湯治の街として発展してきた。江戸時代には大塩の名の通り塩分の強い温泉から「御用塩」を採ったとされており、塩採りは昭和20年代はじめまで続いた。平成20年には、昔ながらの技法そのままに温泉水から塩を作る「会津山塩」を復活させ、村の特産品となっている。

裏磐梯地区

県内随一の観光名所となっており、桧原湖や五色沼などの湖沼群に囲まれている。景観に配慮した建物が立ち並び、統一感のある看板の設置も合わせて、街全体がウッド調の色彩となっている。スキー場が3つあり、冬の観光を担うほか、ホテルやペンション、民宿、キャンプ場も多く、四季を通して全国各地から多くの観光客が訪れる。

1888(明治21)年 7月

7月15日午前7時45分頃、磐梯山が水蒸気爆発し、山体崩壊により岩なだれが発生した。477人もの方々が犠牲となったが、一方では桧原湖をはじめとする大小300余りの美しい湖沼群が形成された。



磐梯山噴火

国際赤十字運動の平時災害救護発祥の地

一瞬にして荒廃の地となった磐梯山麓に、日本赤十字社が国内初の「平時災害救助活動」として医師3名を送りこみ、初の戦争以外の救護活動が実現した。

噴火から100周年の平成元年には、五色沼(毘沙門沼)入口に石碑が建立された。



平時災害救護発祥の地碑

1920(大正 9)年

遠藤現夢が磐梯山麓植林事業に成功し、「裏磐梯」と命名する。

遠藤現夢

磐梯山の噴火で荒野となった土地に美しい緑を蘇らせようと、荒廃した官地の払い下げ権利を譲り受け、私財を投じて植林を行い、現在の美しい裏磐梯の基礎を築いた。

五色沼自然探勝路の途中から脇にそれたところには、遠藤現夢(本名遠藤十次郎)氏が生前に建てた墓標がある。



村のあゆみ

1950(昭和25)年

第46代福島県知事に大竹作摩氏(北山)が就任する。

大竹作摩

公選となってからは2人目の知事。昭和25年1月28日から昭和32年7月25日までの2期7年6ヶ月間務めた。戦後の混乱期に只見川電源開発に力を注ぎ、日本の産業経済復興に大きく貢献したほか、農業協同組合の強化、磐梯吾妻スカイラインの整備など、福島県の発展に燦然と輝く功績を残した。



磐梯朝日国立公園に指定。

裏磐梯を含む福島、山形、新潟の3県にまたがる総面積18万7,041ヘクタールが「磐梯朝日国立公園」として、国立公園に指定される。

檜原漁業協同組合が設立される。

1953(昭和28)年

猪苗代駅を結ぶ路線バスが走行を開始する。

1954(昭和29)年 3月

● 北塩原村の誕生

明治22年町村制施行以来続いた北山村、大塩村、檜原村は、30日をもって廃止となり、翌31日北塩原村として発足した。



村誕生

1955(昭和30)年 3月

● 北塩原村発足第1回目の村議会議員選挙が28日に行われた。

1956(昭和31)年 10月

● 北山薬師祭礼が県下準十大祭礼に選定される。



北山薬師

1957(昭和32)年 10月

● ニッコウキスゲ、コバイケイソウなど300余種の高山植物が群生する「雄国沼湿原植物群落」が天然記念物に指定される。



雄国沼湿原

1888年～1963年

1959(昭和34)年 4月

● 桧原小学校蛇平、曾原分校及び桧原中学校裏磐梯分校が廃止され、裏磐梯小学校ならびに裏磐梯中学校となる。小学校校舎は本年工事着手し、翌年に完成する。



裏磐梯小中学校

8月

● 裏磐梯観光協会が設立される。

1960(昭和35)年 11月

● 大竹作摩氏が衆議院議員に当選する。

1961(昭和36)年 10月

● 県道米沢・猪苗代線開通。

1963(昭和38)年 12月

● 畜産振興のため、大塩桜峠に村営桜峠牧場として造成し完成する。



桜峠牧場

- 1965(昭和40)年 7月 ● 裏磐梯に訪れる観光客の利便性を図るため、裏磐梯観光会館を建設する。
- 喜多方市、塩川町及び本村共同により雄国沼休憩舎を建設する。

1967(昭和42)年 5月 ● **大塩大火**

異常乾燥注意報が出されていた26日午後1時20分頃出火、折からの強い南々東の風が吹いていたのと、各農家が田植えて留守にしていたところが多く、さらに水の便が悪いなどの悪条件が重なって2時間余の猛火のため温泉旅館4軒、北塩原郵便局を含む民家40世帯、お寺など住家、非住家99棟8,491㎡を全焼245人が焼け出された。午後9時40分頃ようやく鎮火した。



大塩大火

- 11月 ● 高原野菜栽培に標高850mの山林を開墾し、農耕地造成を行う小野川農業構造改善事業が着工する。



小野川農業

- 1968(昭和43)年 8月 ● 「高原大根」を東京市場に初出荷する。

- 1969(昭和44)年 5月 ● 桧原出張所が新築。

- 1970(昭和45)年 6月 ● 有料道路「磐梯山ゴールドライン」が開通。

- 11月 ● 鷹の巣山林道開通。

- 1971(昭和46)年 8月 ● 裏磐梯火の山まつり盆踊り大会がはじまる。

- 北塩原温泉(現在の大塩裏磐梯温泉)のボーリングが成功し、46℃毎分200ℓの湯が湧出した。

- 1972(昭和47)年 7月 ● 北塩原村商工会が設立される。

- 8月 ● 早稲沢集落に民宿17軒が開業する。

- 10月 ● 延長13.1kmの有料道路「磐梯吾妻レークライン」が開通。

- 1973(昭和48)年 7月 ● 延長17.8kmの有料道路「西吾妻スカイパレー」が開通。



高原大根出荷



火の山まつり



早稲沢集落

1974(昭和49)年 1月

49年豪雪

豪雪対策本部を設置する。昭和48年12月からの降積雪は昭和49年にはますますその様相がはげしく豪雪状態となり、滝の原・長峯・小野川の3集落では積雪が4.3mを超え、孤立状態となった。



豪雪

1975(昭和50)年 4月

● 村民運動場を整備。翌年には村民体育館を建設する。

● 主要地方道喜多方北塩原線(北山～大塩間)改良舗装工事が竣工。



村民運動場

1976(昭和51)年 3月

● 生活改善センターが早稲沢に整備される。

異常低温

6月中旬から10月中旬まで異常低温が続き、被害は水稲117百万円、野菜85百万円、工芸作物4百万円、計206百万円に達し、戦後2番目の冷害となる。



ジュンサイ沼

1977(昭和52)年 4月

● 木造校舎の老朽化に伴い、鉄筋コンクリート2階建ての桧原小中学校を建設する。

1978(昭和53)年 6月

● 裏磐梯でジュンサイ沼の造成が始まる。

1964年～1983年

1979(昭和54)年 7月

● 役場庁舎及びコミュニティセンターを新築し、11月10日から業務を開始する。

1980(昭和55)年 2月

55年豪雪

豪雪対策本部を設置する。2月初旬に降り続いた大雪は近年にない稀に見る豪雪となり、北山大塩間の路線バス運行をとりやめるなど村民生活に大きな支障を来たした。村では6日から徹夜で除雪・排雪作業を行い、8日には大塩までバス路線が確保された。



役場本庁舎

1981(昭和56)年 8月

● 県道桧原湖線が開通する。

1982(昭和57)年 4月

● 北山小学校校舎新築(鉄筋コンクリート3階建)。

● 5月 県道桧原湖線が開通したことを記念して、第1回桧原湖一週ファミリーサイクリング大会が開催される。



サイクリング大会

● 6月 早稲沢地区のボーリング工事で温泉が噴出する。

1983(昭和58)年 3月

● 第1回裏磐梯クロスカントリースキー大会が開かれ、全国から801人が参加。

● 7月 大久保と雄国沼を結ぶ幹線林道大窪線が12年の歳月をかけて完成する。



クロスカントリースキー大会

- 1984(昭和59)年 4月 ● 大塩小学校校舎新築(鉄筋コンクリート3階建)。
- 8月 ● 全国初の山村地域の救急患者をヘリコプターで都市部の病院に運ぶ救急医療輸送実験が、桧原小中学校グラウンドで行われる。
- 9月 ● 剣ヶ峯に自然環境活用センターが完成する。
- 1985(昭和60)年 7月 ● 小野川湧水が、環境庁名水百選に指定される。
- 9月 ● 大塩小学校グラウンドにおいて第1回村民ふれあい大運動祭を開催。
- 1986(昭和61)年 10月 ● 郷土民芸品「守護狐」が、県観光みやげ品コンクールで県観光連盟会長賞を受賞する。
- 1987(昭和62)年 4月 ● 北山、大塩中学校が統合され全校生徒85人で第一中学校が開校する。
- 1988(昭和63)年 7月 ● 磐梯山噴火100周年の記念事業として「殉職者追悼慰霊祭(7月15日)」や「松山千春裏磐梯火の山コンサート(8月20日)」、「裏磐梯マラソン大会(10月2日)」を開催する。



救急医療輸送実験



村民大運動祭



噴火100周年記念事業

- 1989(平成元年)年 3月 ● 北塩原構造改善センターが完成。
- 9月 ● 主要地方道喜多方北塩原線大塩バイパス「ひばらビューライン」が完成。
- 1990(平成2)年 3月 ● 剣ヶ峯に鉄筋コンクリート3階建の村営住宅が完成。
- 剣ヶ峯住宅内に裏磐梯診療所を併設(移転)する。
- 1991(平成3)年 8月 ● 第1回北塩原村子供の主張大会が北山小学校で行われる。
- 1992(平成4)年 9月 ● 旧大塩小中学校跡地に北塩原村活性化センターが完成する。
- 11月 ● ふくしま駅伝大会に初出場する。
- 1993(平成5)年 3月 ● 第1回村民スキー大会を開催する。
- 4月 ● 県道「ひばらビューライン」が国道459号に昇格。
- 5月 ● **異常低温**
5~10月にかけての異常低温気象により稲作作況指数が71と戦後最悪となる。
- 9月 ● 北山地区にライスセンター(穀類等乾燥調整施設)が完成。



ひばらビューライン



ふくしま駅伝



スキー大会

- 1994(平成 6)年 10月 ● 平成5年から一転し、温暖な気候が続き稲作は史上2番目の大豊作、作況指数114と上がる。
- 1995(平成 7)年 4月 ● 桧原、裏磐梯両中学校が統合し、生徒数74人の新しい裏磐梯中学校が開校する。
- 8月 ● **8.3集中豪雨**
2日から3日にかけて会津北部で集中豪雨が発生した。
- 1996(平成 8)年 7月 ● いこいの森の中心施設「ラビスパ裏磐梯」がオープン。
- 1997(平成 9)年 3月 ● 小学生派遣・姉妹都市提携として、小学生23人が23日から4月1日までの10日間、ニュージーランド・タウポ市ツランギ地区との交流を行う。また、11月7日には、姉妹友好都市提携調印式が現地で行われた。
- 明治24年の開校から長い歴史と伝統のある桧原小学校が31日に閉校。校舎跡地は、11月19日に明治大学桧原湖セミナーハウスとしてオープン。
- 7月 ● 県内6番目となる道の駅裏磐梯「裏磐梯ビューパーク」がオープン。
- 1998(平成10)年 6月 ● 裏磐梯サイトステーションがオープン。
- 1999(平成11)年 4月 ● 裏磐梯幼稚園が開園。
- 松陽台ニュータウンが分譲開始、第1次販売分50区画が販売と同時に完売。
- 5月 ● デイサービスセンター、在宅介護支援センターがオープン。
- 7月 ● 桧原歴史館がオープン。



裏磐梯中学校開校



道の駅裏磐梯

1984年~2003年

- 2000(平成12)年 7月 ● スポーツパーク桧原湖がオープン。
- 11月 ● 総延長約80km、19のトレッキングコースが完成。
- 2001(平成13)年 4月 ● 桧原湖ふれあい温泉「湖望」がオープンし、桧原出張所・桧原診療所も同棟に移転。
- 北山幼稚園が開園。
- 2002(平成14)年 3月 ● 沖縄県東村との交流がスタート。初の交流事業として村内小学6年生18人が東村を訪問。8月5日には東村の中学生15人が本村を訪れる。
- 松陽台ニュータウンに村営住宅が完成する。木造2階建2棟4戸。翌年3月20日に木造2階建4棟6戸。
- 大塩地区に保健センターが完成する。
- 10月 ● 「2001桜植樹フェスタ」が12日から20日まで桜峠で開催される。
- 2003(平成15)年 4月 ● 五色沼入口と喜多方駅を結ぶ定期路線バスが運行開始。
- 裏磐梯物産館がオープン。
- 県五色沼自然教室跡地に裏磐梯ビジターセンターを環境省が整備する。
- 10月 ● 道の駅に農産物直売所がオープン。
- 12月 ● 村議会定例会において喜多方地方6市町村法定合併協議会に参加せず、全会一致で「自立の道を進む北塩原村宣言」を可決する。



沖縄県東村交流事業



桜植樹フェスタ

- 2004(平成16)年 2月 ● 北塩原村シルバー人材センターが設立される。
 4月 ● 猪苗代駅・桧原間の定期路線バスが運行を開始する。
 7月 ● 北塩原村裏磐梯合同庁舎が完成し、業務を開始する。
 8月 ● 南東北裏磐梯診療所が完成する。
 10月 ● 23日に発生した新潟県中越地震で、小千谷市に物資のほか、ボランティアで4,000個のおにぎりを握って輸送する。
 ● 東京都杉並区と「東京都杉並区／福島県北塩原村まるごと保養地協定」を締結する。
- 2005(平成17)年 6月 ● 雄国3林道オーバーユース対策マイカー規制がスタートする。
 9月 ● シンガーソングライターの普天間かおりさんに「裏磐梯観光大使」を委嘱する。
- 2006(平成18)年 4月 ● 村内幼稚園の保育料を無料化とする。
 8月 ● 第1回裏磐梯スカイバレーヒルクライム大会を開催する。
- 2007(平成19)年 4月 ● 北山・大塩各小学校、幼稚園の統合により「さくら小学校」、「さくら幼稚園」が開校、開園する。
 ● 会津山塩企業組合が設立され、温泉水を煮詰めた「会津山塩」が60年ぶりに復活する。
- 2008(平成20)年 3月 ● 北山地区に村営住宅団地「スカイヒル北山」が完成する。
 5月 ● 山形県上市市とスポーツ合宿誘致に関する事業連携協定を締結する。
 ● NHK大河ドラマ「天地人」記念ウォークが開催される。
 8月 ● 村営住宅「裏磐梯団地」が完成する。
- 2009(平成21)年 7月 ● 北塩原村墓地公園が完成する。



さくら小学校開校



天地人ウォーク

- 2010(平成22)年 4月 ● 村内初の認可保育所、芙蓉保育園が開園する。
 5月 ● シンガーソングライターの小椋佳さんに「裏磐梯観光大使」を委嘱する。
- 2011(平成23)年 3月 ● **東日本大震災**
 11日午後2時46分、宮城県沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生。裏磐梯地区の水源が影響を受け、給水車による緊急的な給水作業を実施したほか、国道459号が被災した。また、多くの生活物資や義援金の善意が寄せられた。
- 9月 ● 磐梯山地域が、日本ジオパークに認定される。
 10月 ● 沖縄県東村との友好交流協定を締結する。
- 2012(平成24)年 2月 ● 東京都杉並区と災害時相互援助協定を締結。
 4月 ● 北塩原村オリジナル地酒「佳き酔 歌磐梯」を村内限定で販売開始する。
 6月 ● マラソンランナーの佐藤敦之さんに「きたしおばらスポーツ大使」を委嘱する。
 7月 ● 大玉村との災害相互援助に関する協定を締結する。
- 2013(平成25)年 1月 ● 南相馬市との災害時相互援助に関する協定を締結する。
 5月 ● 福島県と台湾へのトップセールスを実施し、台湾との国際交流事業が開始する。
 8月6日から9日までの4日間の日程で明潭国民中学を訪問、現地の中学生と交流を深める。
 7月 ● 観光道路3道路(スカイライン、ゴールドライン、レークライン)が無料化される。
 10月 ● 榎本隆充さん(東京農大客員教授)に「会津・北塩原大使」を委嘱する。
 11月 ● 村駅伝チームが10年ぶりに市町村対抗縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)に出場する。



東日本大震災



台湾交流

- 2014(平成26)年 2月 ● 大塩川前神楽が地元の有志により復活へ向けてスタートする。
- 4月 ● 旧大塩小学校が、生涯学習センターとしてリニューアルする。
- 村で発行している車両ナンバー（原動機付自転車、農耕車など）のご当地ナンバーデザインが決定し、交付が開始する。
- 県道会津若松裏磐梯線の「桧原トンネル」が開通する。
- 6月 ● 北塩原村村制施行60周年を記念して、裏磐梯観光大使の小椋佳さんに「北塩原村村の歌」の作成を依頼し完成する。歌詞には、村民及びゆかりのある方から「歌詞に入れたい言葉」を募集した。



ご当地ナンバー交付



村の歌披露

2004年～2016年

- 2015(平成27)年 5月 ● 皇室の新嘗祭に献上する献上米御田植式が開催される。
- 6月 ● 地域おこし協力隊を設置し、2名の隊員が入村する。
- 7月 ● うつくしま・みずウオークが開催され、1,900人の参加者が小野川湖畔を歩く。
- 12月 ● 磐梯山ジオパークが再認定される。
- 在京きたしおばら会が発足する。
- 2016(平成28)年 3月 ● 新たな農業振興を目指し、東京農業大学と包括連携協定を締結する。
- 5月 ● トライアスリートの菊池日出子さんに『きたしおばらスポーツ大使』を委嘱する。



献上米御田植式



うつくしま・みずウオーク



在京きたしおばら会

- 2017(平成29)年 3月 ● 新潟県小千谷市と災害時相互応援に関する協定締結。
- 4月 ● 火災・災害時の体制強化を図るため、消防協力隊が発足する。
- 9月 ● 地域医療体制の充実のため、総合南東北病院の医師常駐による診療がスタートする。
- 11月 ● 2020年東京オリンピック・パラリンピックの復興「ありがとう」ホストタウンに選定される。
- 2018(平成30)年 2月 ● 村内で試験飼育していたエミューの産卵を初めて確認。
- 3月 ● 姉妹友好都市締結20周年を記念して、村長等がニュージーランド・ツランギ地区を訪問。
- 5月 ● 五色沼入口観光プラザがオープンする。
- 9月 ● 千葉県市川市と相互交流に関する協定締結。



南東北裏磐梯診療所



エミュー産卵



観光プラザ

- 2019(平成31)年 2月 ● 村内で試験飼育していたエミューのヒナが誕生する。
- (令和 元)年 5月 ● 新元号「令和」制定記念桜峠さくらまつりを開催する。
- 10月 ● 会津・米沢街道が文化庁「歴史の道百選」に選定される。
- 11月 ● 台湾と交流のある北塩原村・大玉村・玉川村3村合同による「村民の翼」実施。
- 12月 ● ふくしま駅伝大会へ再参加して以来最高順位の総合38位でフィニッシュし、敢闘賞を受賞する。



さくらまつり



村民の翼



ふくしま駅伝

- 2020(令和 2)年
- 2月 ● 台湾草屯国民中学校の生徒13名が来村し、裏磐梯中学校の生徒と交流する。
 - 4月 ● 新型コロナウイルス感染症に伴う村独自の生活支援策として、生活支援緊急給付金事業を実施し、対象者1人につき5万円を給付する。
 - 7月 ● **令和2年7月28日大雨**
停滞した梅雨前線の影響で、28日から29日にかけて大雨、洪水警報が発令され、桧原では28日の降水量が139.5mm(福島地方气象台)となるなど村内全域で大雨となり、土砂崩れや冠水など村内各地で被害が発生した。
 - 9月 ● 磐梯朝日国立公園指定70周年を記念した式典・シンポジウムが開催される。
 - 10月 ● 裏磐梯ビジターセンターの来館者が150万人を達成する。
 - 12月 ● 車両を村が所有してバス事業者に貸与する公有民営路線バスの運行を開始する。
- 2021(令和 3)年
- 3月 ● 裏磐梯旅館組合と「災害時等における宿泊施設の提供等に関する協定」を締結する。
 - 5月 ● 新型コロナワクチンの集団接種が行われる。
 - 9月 ● 東京2020パラリンピック聖火フェスティバル種火起こし式が行われる。
 - 11月 ● 蛇平地区に天然芝16,900㎡、福島県内でもトップクラスの美しさと広大なスペースを有したグラウンド「グリーンフィールド蛇平」が完成する。
 - 交通事故死者ゼロ2000日を達成する。



大雨被害



集団接種

2017年~2024年

- 2022(令和 4)年
- 1月 ● 磐梯山ジオパーク協議会が、日本ジオパーク委員会の審査において再認定を受ける。
 - 3月 ● 柏木城跡が村で初となる国史跡に指定される。
 - 5月 ● 大塩裏磐梯旅館組合と「北塩原村災害時等における宿泊施設の提供等に関する協定」を締結する。
 - 6月 ● 生活協同組合コープあいづと「地域見守りの取り組みに関する協力協定」を締結する。
 - 8月 ● **令和4年8月豪雨災害**
3日から4日にかけて発生した大雨は、村観測史上最大の雨量315.5mm(福島地方气象台桧原観測所)となり、住宅の床上浸水、生活道路や農地の損傷など、広範囲にわたり多くの被害をもたらした。
 - 株式会社ダイユーエイトと災害時における物資の供給協力に関する協定を締結する。
 - 10月 ● 村消防団機能別団員として活動する役場職員7名に辞令を交付する。
- 2023(令和 5)年
- 2月 ● 株式会社リオン・ドールコーポレーションと災害時の物資の供給協力に関する協定を締結する。
 - 10月 ● 村民の皆さんの声に耳を傾け、みんなが輝きみんなが誇れる村づくりを進めるため、村政懇談会を村内15地区で開催する。
- 2024(令和 6)年
- 3月 ● 2050年までに村内の二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」の実現を目指し「ゼロカーボンシティ」を宣言。
 - 4月 ● 子育て対策、住環境対策、観光人口・関係人口の拡大を図り、人口減少対策を推進するため、役場の組織を変更する。



ジオパーク



村政懇談会

北塩原村の子育て・教育でむらづくり



結婚の希望を叶える事業

結婚を希望する村民を応援するため、福島県オンライン結婚マッチングシステム「はび福なび」の初回登録料を全額助成します。また、結婚に伴う引越、住宅取得または家賃、リフォーム等に要する費用などに対し、最大60万円の結婚新生活祝金を贈呈。新生活の門出をお祝します。



妊娠の希望を叶える事業

妊娠を希望する段階から相談体制を充実。基礎体温計等を支給するほか、不妊・不育症治療費の助成、母子健康手帳交付月からの妊産婦医療費の全額助成、妊娠37週以降の妊婦健診受診時や分娩時の交通・宿泊費助成など、より安心な妊娠・出産ができるよう、子育て世帯に寄り添い支援します。



子育ての希望を叶える事業

次代を担う子どもの誕生の祝福と健やかな成長を願い、出産祝金を贈呈しているほか、満4歳から満15歳を迎えるまで児童一人当たり5万円の祝金を毎年贈呈。豊かな子育て・子育てを応援します。また、家庭の事情により乳幼児を保育園に預けることができず、ご家庭で保育を行う保護者に対し、在宅育児支援金を支給します。多様な子育ての環境、保育の充実を図ります。



学校給食費無償化事業



子育て世代の保護者の負担を軽減し、安心して子育てができる村づくりを推進します。

学社連携事業(運動会)



学校と地区住民が合同で運動会を実施し、体力の向上と相互の親睦を深め、世代間交流に努めます。

こめこめらクラブ事業



幼稚園児・小学生による田植え・稲刈り体験を行っています。米作りを通して食べ物大切さを学びます。

北塩原村の 住環境 でむらづくり



路線バス維持確保事業



北塩原村と喜多方市や猪苗代町を結ぶ主要な公共交通機関で、地域住民と観光客の移動を支えています。

コミュニティバス運行事業



路線バスが走行していない「交通空白エリア」を巡回する地域密着型のバスサービスです。

官民連携による住宅用地の整備



宅地分譲住宅用地の早期実現を図るため、官民連携により住宅用地を整備しました。契約（入札）から販売開始まで約5か月間で実施。移住定住に向けた広報活動についても官民連携により行っています。

若者定住住宅取得支援事業



若い世代と子育て世帯の定住を応援し、新築・建売住宅および村内中古物件の取得費用を補助します。

住まいのバトンタッチ事業



空き家を借り上げ改修し、移住者に安価で貸し出します。所有者と移住者双方にメリットがあります。

プラス きたしおばら+情報発信魅力向上事業



ホームページや公式LINEを活用した情報発信の強化・多様化を図り、情報発信媒体の特性やターゲットを踏まえた効果的な発信を行います。

TOPIC

若者定住住宅「グリーンヒル裏磐梯」(令和6年3月完成)

自然豊かな磐梯朝日国立公園の中に、子育て世帯、若者夫婦世帯向けの賃貸住宅を整備しました。

木造2階3LDKの戸建住宅で五色沼までは徒歩5分です。



北塩原村の 観光・交流 でむらづくり



📌 サイクルツーリズム推進事業



自転車走行環境の整備やサイクルツーリズムを通じた観光・地域振興の推進を図ります。

📌 北塩原村地域情報発信事業



北塩原村の「自然」「温泉」「文化」「歴史」「体験」などの魅力や情報を発信し、イメージ向上を図ります。

📌 探勝路整備事業



バリアフリー遊歩道から2,000m級の登山道まで、変化に富み、裏磐梯の魅力を感じられる探勝路を管理し、観光誘客に努めます。

📌 教育旅行推進事業



村内に宿泊を伴う教育旅行を実施する学校に対して貸切バスの利用に係る助成金を交付し、教育旅行の推進を図ります。

📌 杉並区まるごと保養地協定事業



まるごと保養地協定を締結している東京都杉並区との連携を強化し、観光人口・関係人口拡大を図ります。

📌 スノーリゾート形成促進事業



会津若松市と磐梯町と連携し、様々なスノーアクティビティを活用した国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。

TOPIC

五色沼東エリア利用拠点上質化事業

裏磐梯の玄関口となる五色沼東エリア(裏磐梯ビジターセンター、五色沼観光プラザ周辺)を一面的に整備することで、自然、観光、ガイド機能などを集約した拠点整備を図り、来訪者の満足度向上を目指します。



CHECK!!

データで見る 北塩原村

資料編



KITASHIOBARA 70th Anniversary

北塩原村の歴代三役、議長・副議長、教育長

歴代村長

歴代	氏名	期間
初代	加勢 栄治	S29.5.4~33.5.3
2代	小椋美登利	S33.5.4~37.5.3
3代	武藤 正雄	S37.5.4~41.5.3
4代	武藤 正雄	S41.5.4~45.5.3
5代	鈴木 格	S45.5.4~49.5.3
6代	鈴木 格	S49.5.4~53.5.3
7代	鈴木 格	S53.5.4~57.5.3
8代	鈴木 格	S57.5.4~60.2.8
9代	安部 耕吉	S60.4.7~H元.4.6
10代	安部 耕吉	H元.4.7~4.7.20
11代	高橋 伝	H4.9.6~8.9.5
12代	高橋 伝	H8.9.6~12.9.5
13代	高橋 伝	H12.9.6~16.9.5
14代	高橋 伝	H16.9.6~20.9.5
15代	小椋 敏一	H20.9.6~24.9.5
16代	小椋 敏一	H24.9.6~28.9.5
17代	小椋 敏一	H28.9.6~R2.9.5
18代	遠藤 和夫	R2.9.6~現在



初代村長
加勢 栄治氏



2代村長
小椋 美登利氏



3代・4代村長
武藤 正雄氏



5代~8代村長
鈴木 格氏



9代・10代村長
安部 耕吉氏



11代~14代村長
高橋 伝氏



15代~17代村長
小椋 敏一氏



18代村長
遠藤 和夫氏

歴代副村長



7代副村長
高橋 淳氏

歴代	氏名	期間
初代	小椋 敏一	H19.4.1 ~20.6.13
2代	鈴木 勉	H20.11.1 ~23.3.31
3代	今野 一宏	H23.4.1 ~25.3.31
4代	小椋 涉	H25.7.1 ~29.6.30
5代	小椋 涉	H29.7.1 ~R3.3.31
6代	佐藤 保良	R3.4.1 ~5.3.31
7代	高橋 淳	R5.4.1 ~現在

歴代助役

歴代	氏名	期間	歴代	氏名	期間
初代	中川 庄三	S29.3.31~29.5.25	9代	樟山 正敏	S57.6.24~61.6.23
2代	中川 庄三	S29.5.26~33.5.25	10代	井上 清光	S61.9.19~H元.4.6
3代	遠藤林太郎	S34.1.26~38.1.25	11代	遠藤 良雄	H2.4.1~5.3.31
4代	佐藤 藤松	S38.2.13~42.2.12	12代	天野 金一	H5.4.1~7.3.31
5代	佐藤 藤松	S42.2.13~46.2.12	13代	冠木 幸英	H7.4.1~11.3.31
6代	安部 耕吉	S46.6.21~49.6.23	14代	冠木 幸英	H11.4.1~15.3.31
7代	安部 耕吉	S49.6.24~53.2.28	15代	斎藤 八郎	H15.4.1~19.3.31
8代	樟山 正敏	S53.6.24~57.6.23			

歴代収入役

歴代	氏名	期間	歴代	氏名	期間
初代	齋藤 正夫	S29.3.31~29.5.25	9代	佐藤 善榮	S58.7.1~62.6.30
2代	齋藤 正夫	S29.5.26~33.5.25	10代	遠藤 良雄	S62.7.1~H2.3.31
3代	齋藤 正夫	S33.6.24~37.6.23	11代	東條 録	H3.6.27~7.6.26
4代	齋藤 正夫	S37.6.24~41.6.23	12代	渡部 盛夫	H7.6.27~11.6.26
5代	樟山 正敏	S41.6.24~45.6.23	13代	渡部 盛夫	H11.6.27~13.3.31
6代	樟山 正敏	S45.6.24~49.6.23	14代	小椋 敏一	H13.4.1~17.3.31
7代	樟山 正敏	S49.6.24~53.6.23	15代	小椋 敏一	H17.4.1~19.3.31
8代	佐藤 善榮	S54.7.1~58.6.30			



28代議長
五十嵐 善清 氏



28代副議長
遠藤 春雄 氏

歴代議長

歴代	氏名	期間
初代	小椋美登利	S29.4.5~30.3.30
2代	佐藤 藤松	S30.4.19~34.3.30
3代	武藤 正雄	S34.4.13~37.3.15
4代	佐藤 熊壽	S37.5.15~38.4.29
5代	鈴木 格	S38.5.16~42.4.29
6代	鈴木 格	S42.5.15~45.4.5
7代	目黒 平喜	S45.5.11~46.4.29
8代	武藤 久雄	S46.5.7~50.4.29
9代	高橋 正巳	S50.5.14~54.4.29
10代	荒井 清伊	S54.5.8~57.3.11
11代	斎藤 安衛	S57.3.11~58.4.29
12代	蟹巻 正衛	S58.5.4~60.2.28
13代	目黒 善平	S60.2.28~62.4.29
14代	蟹巻 正衛	S62.5.7~63.12.21
15代	菊地 泰男	S63.12.21~H3.4.29
16代	高橋 伝	H3.5.8~4.8.12
17代	五十嵐寅吉	H4.9.16~7.4.29
18代	大竹 宏一	H7.5.2~8.8.13
19代	武藤 久人	H8.9.6~10.4.9
20代	五十嵐好江	H10.4.9~11.4.29
21代	五十嵐好江	H11.5.6~13.3.14
22代	五十嵐 肇	H13.3.14~15.4.29
23代	鈴木 定芳	H15.5.8~19.4.29
24代	小椋 眞	H19.5.7~23.4.29
25代	小椋 眞	H23.5.6~27.4.29
26代	大竹 良幸	H27.5.7~31.4.29
27代	小椋 眞	H31.4.30~R5.4.29
28代	五十嵐善清	R5.5.2~現在

歴代副議長

歴代	氏名	期間
初代	佐藤岩三郎	S29.4.5~30.3.30
2代	武藤 吉美	S30.4.19~33.4.20
3代	武藤 正雄	S33.5.24~34.3.30
4代	佐藤 熊壽	S34.4.13~37.5.15
5代	五十嵐広巳	S37.5.15~38.4.29
6代	武藤 久雄	S38.5.16~42.4.29
7代	武藤 久雄	S42.5.15~46.4.29
8代	大堀 幸一	S46.5.7~50.4.29
9代	大堀 幸一	S50.5.14~53.7.5
10代	高畑 丑太	S53.9.2~54.4.29
11代	斎藤 安衛	S54.5.8~57.3.11
12代	武藤 宗一	S57.3.11~58.4.29
13代	目黒 善平	S58.5.4~60.2.28
14代	菊地 泰男	S60.2.28~62.4.29
15代	菊地 泰男	S62.5.7~63.12.21
16代	長島 孝吉	S63.12.21~H3.4.29
17代	五十嵐寅吉	H3.5.8~4.9.15
18代	武藤 久人	H4.9.16~7.4.29
19代	五十嵐好江	H7.5.2~10.4.9
20代	佐藤 勲	H10.4.9~11.4.29
21代	伊藤 文雄	H11.5.6~15.4.29
22代	小椋 眞	H15.5.8~19.4.29
23代	小椋 義正	H19.5.7~23.4.29
24代	遠藤 祐一	H23.5.6~27.4.29
25代	蟹巻 尚武	H27.5.7~31.4.29
26代	五十嵐正典	H31.4.30~R3.4.29
27代	若林 幸子	R3.4.30~5.4.29
28代	遠藤 春雄	R5.5.2~現在

歴代教育長



21代~教育長
石本 浩一 氏

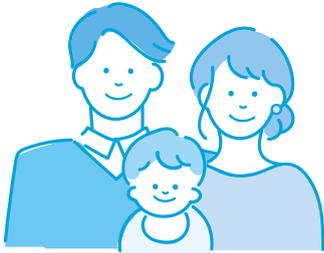
歴代	氏名	期間
教育長事務取扱	井上 清光	S29.3.31~31.9.30
初代	井上 清光	S31.10.1~35.9.30
2代	井上 清光	S35.10.1~39.9.30
3代	井上 清光	S39.10.1~43.9.30
4代	井上 清光	S43.10.1~47.9.30
5代	井上 清光	S47.10.1~51.9.30
6代	井上 清光	S51.10.1~55.9.30
7代	井上 清光	S55.10.1~59.9.30
8代	武藤 啓	S59.12.17~60.9.30
9代	武藤 啓	S60.10.1~H元.9.30
10代	武藤 啓	H元.10.1~5.9.30
11代	須藤 信立	H5.10.5~9.9.30
12代	須藤 信立	H9.10.1~13.3.31
13代	斎藤 八郎	H13.4.1~15.3.31
14代	佐藤 忠幸	H15.4.1~19.3.31
15代	佐藤 定男	H19.4.1~23.9.30
16代	佐藤 信寛	H23.10.8~26.10.7
17代	佐藤 信寛	H26.10.8~27.3.31
18代	鈴木 力雄	H27.4.1~30.3.31
19代	鈴木 力雄	H30.4.1~R3.3.31
20代	鈴木 力雄	R3.4.1~4.3.31
21代	石本 浩一	R4.4.1~6.3.31
22代	石本 浩一	R6.4.1~現在

現職議員

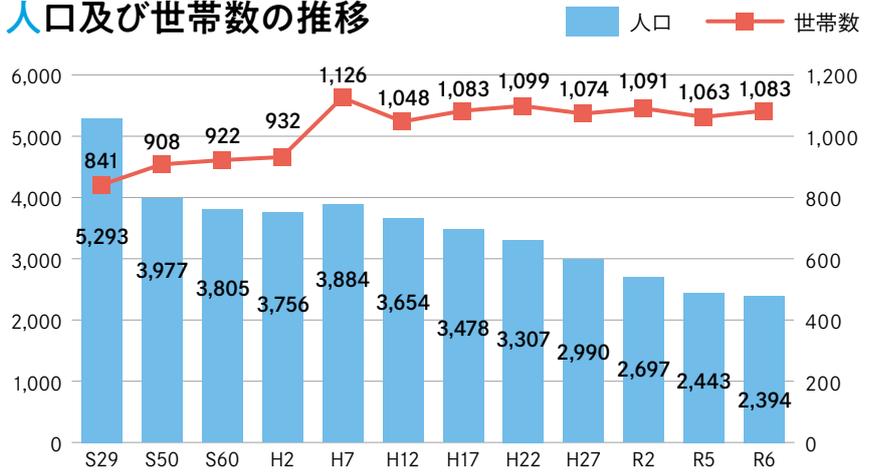
職名	氏名	所属委員会
議長	五十嵐善清	総務文教常任委員会、 議会広報調査特別委員会
副議長	遠藤 春雄	○経済厚生常任委員会
議員	小椋 眞	経済厚生常任委員会、 監査委員
議員	遠藤 祐一	◎経済厚生常任委員会、 ○議会運営委員会
議員	五十嵐正典	総務文教常任委員会、 ◎議会運営委員会
議員	伊藤 敏英	◎総務文教常任委員会、 議会運営委員会、 ○議会広報調査特別委員会
議員	渡部 哲夫	経済厚生常任委員会
議員	柏谷 孝雄	○総務文教常任委員会、 議会広報調査特別委員会
議員	遠藤 康幸	経済厚生常任委員会、 議会運営委員会、 ◎議会広報調査特別委員会
議員	北原 安奈	総務文教常任委員会、 議会広報調査特別委員会

◎委員長 ○副委員長

北塩原村の人口



人口及び世帯数の推移



資料：昭和29年合併時資料、昭和50年以降住民基本台帳(4月1日現在)

地区別人口と世帯数の推移

(単位：人)

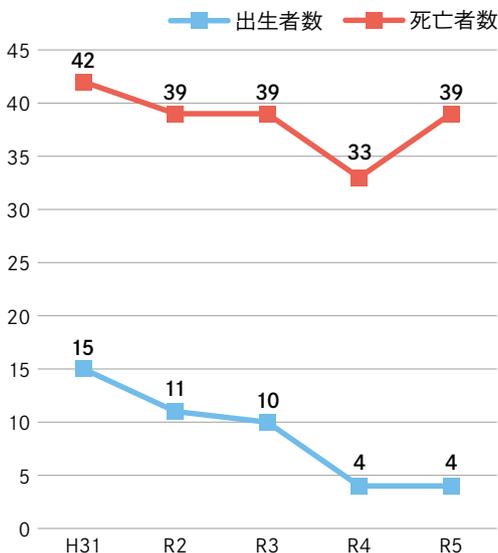
人口	S29年	S50年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	R2年	R5年	R6年
北山	1,706	1,233	1,176	1,160	1,139	1,128	1,256	1,287	1,218	1,115	1,005	985
大塩	1,645	1,126	1,030	991	935	877	791	682	581	491	445	426
桧原	1,942	747	649	592	542	494	429	377	331	270	242	244
裏磐梯		871	950	1,013	1,268	1,155	1,002	961	860	821	751	739
計	5,293	3,977	3,805	3,756	3,884	3,654	3,478	3,307	2,990	2,697	2,443	2,394

(単位：世帯)

世帯	S29年	S50年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	R2年	R5年	R6年
北山	261	263	254	253	257	271	340	370	374	375	370	374
大塩	246	236	227	220	217	212	222	210	203	204	195	197
桧原	334	168	160	156	152	144	138	130	123	108	109	115
裏磐梯		241	281	303	500	421	383	389	374	404	389	397
計	841	908	922	932	1,126	1,048	1,083	1,099	1,074	1,091	1,063	1,083

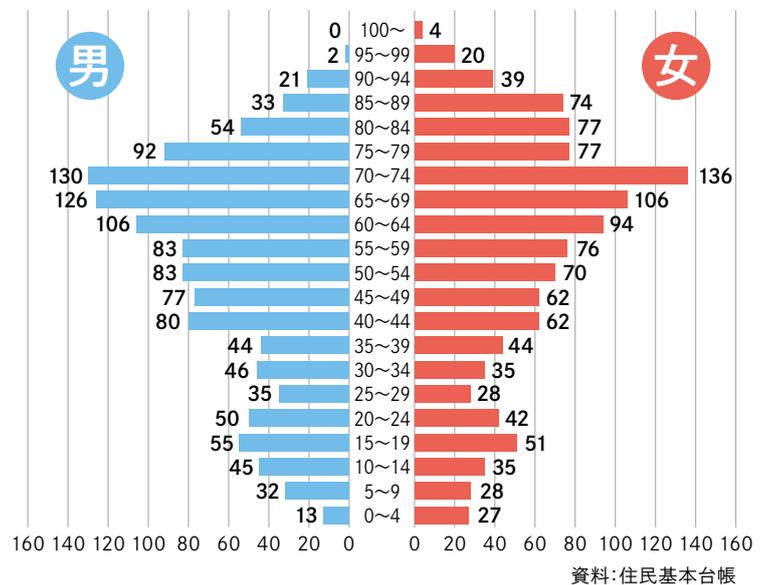
資料：昭和29年合併時資料、昭和50年以降住民基本台帳(4月1日現在)

出生者数・死亡者数の推移



資料：福島県現住人口調査

人口ピラミッド (令和6年4月1日現在)

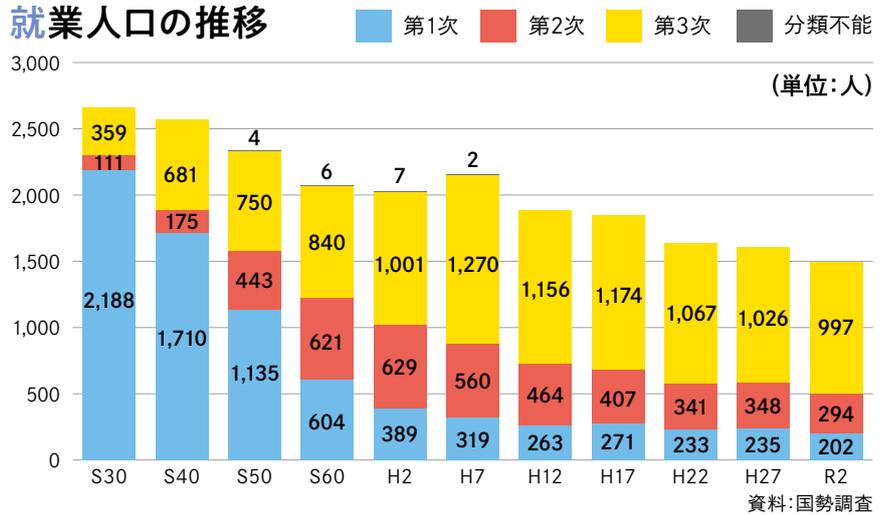


資料：住民基本台帳

北塩原村の産業



就業人口の推移



専業・兼業別農家数

(単位:戸)

年度	農家数	専業農家	兼業農家		
			計	第1種兼業農家	第2種兼業農家
H12	280	23	257	52	205
H17	229	30	199	54	145
H22	208	31	177	37	140
H27	169	55	114	19	95
R2	138	24	114	20	94

資料:農林業センサス

工業 (従業員4人以上の事業所)

年度	事業所数(事業所)	従業員数(人)	製造品出荷額等(万円)
H24	6	100	116,108
H28	6	87	112,402
R3	6	101	110,043

資料:経済センサス活動調査

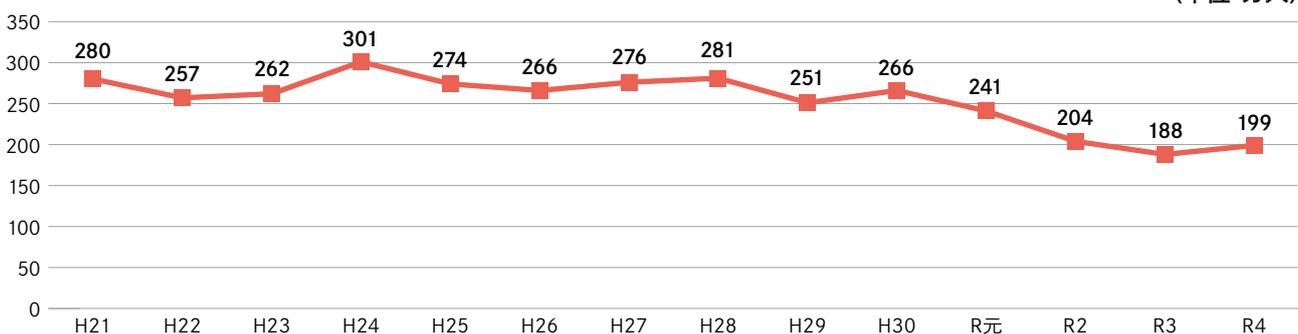
商業 (卸売・小売業)

年度	事業所数(事業所)	従業員数(人)	年間商品販売額(万円)
H24	16	58	92,500
H28	21	74	90,782
R3	23	72	84,986

資料:経済センサス活動調査

観光客入込数の推移

(単位:万人)



資料:福島県観光客入込状況

北塩原村の住環境



水道の利用状況 (令和4年度)

区分	箇所数	計画給水人口	区域内人口	現在給水人口	普及率
簡易水道	1	3,260	2,396	2,348	99%

資料:水道統計調査

道路の状況 (令和4年4月1日現在)

	実延長(m)	改良済		舗装済		未舗装	橋梁(箇所)		トンネル(m)	
		延長(m)	率(%)	延長(m)	率(%)	延長(m)	永久橋	木橋	箇所	延長
一般国道	28,290	28,290	100.0	28,290	100.0	0	9	0	0	0
主要地方道	44,628	42,301	94.8	44,628	100.0	0	21	0	3	901
村道	95,134	57,938	60.9	84,536	88.8	10,598	48	1	2	28
合計	168,052	128,074	76.2	157,454	93.6	10,598	78	1	5	929

資料:国県道現況調査、道路台帳

ごみ収集状況

(単位: t)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
ごみ収集量	1,214.7	1,262.7	1,221.7	1,272.6	1,221.0	1,186.7	1,019.0	986.5	1,091.6
内訳	可燃物	1,146.5	1,187.9	1,152.8	1,201.1	1,149.7	1,125.3	934.4	1,015.3
	不燃物	56.1	59.8	54.4	50.6	53.4	43.7	63.5	58.2
	粗大ごみ	6.6	9.6	9.2	14.7	11.8	11.6	14.2	10.5
	プラスチック	5.5	5.4	5.3	6.2	6.1	6.1	6.9	7.6

資料:環境センター山都工場搬入量データ

幼稚園・学校数、児童・生徒数の推移 (各年5月1日現在)

(単位:人)

	S29年	S40年	S50年	S60年	H7年	H11年	H13年	H19年	H22年	H27年	R2年	R5年
幼稚園						27 (1園)	73 (2園)	71 (2園)	87 (2園)	68 (2園)	43 (2園)	34 (2園)
小学校	658 (3校、分校7)	765 (4校、分校5)	289 (4校、分校5)	312 (4校、分校1)	270 (4校)	228 (3校)	213 (3校)	179 (2校)	167 (2校)	159 (2校)	129 (2校)	82 (2校)
中学校	376 (3校、分校3)	470 (4校)	207 (4校)	151 (4校)	163 (2校)	134 (2校)	124 (2校)	107 (2校)	89 (2校)	80 (2校)	59 (2校)	63 (2校)

資料:学校基本調査

火災発生件数

	建物火災(件)	林野火災(件)	車両火災(件)	その他火災(件)
H31(R1)	2	0	0	1
R2	0	0	0	2
R3	0	0	1	2
R4	0	0	1	0
R5	0	0	1	1

資料:喜多方地方広域市町村圏組合消防本部「消防活動の概要」



事故発生件数

●喜多方警察署大塩駐在所管内

	物損事故(件)	人身事故(件)	傷者数(人)	死者数(人)
H31(R1)	31	0	0	0
R2	34	3	3	0
R3	31	0	0	0
R4	35	0	0	0
R5	39	1	1	0

資料:喜多方警察署大塩駐在所調べ

●猪苗代警察署裏磐梯駐在所管内(猪苗代町山神原・千貫地区で発生した事故も含む)

	物損事故(件)	人身事故(件)	傷者数(人)	死者数(人)
H31(R1)	83	3	9	0
R2	82	3	3	0
R3	65	0	0	0
R4	69	1	2	0
R5	77	3	2	1

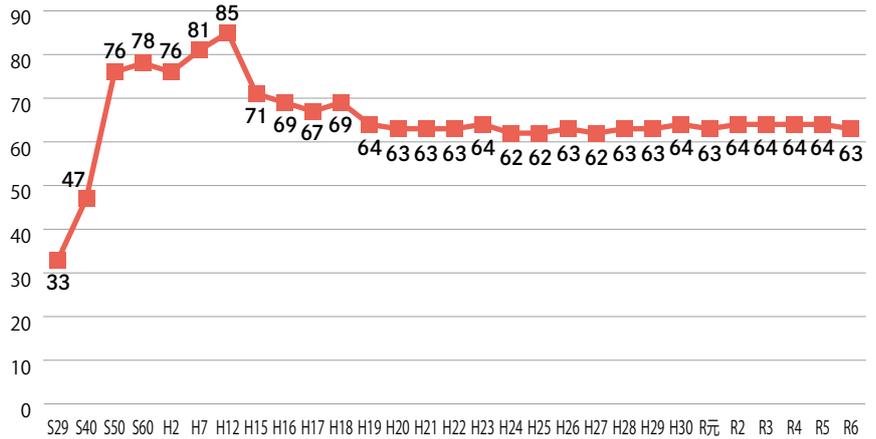
資料:猪苗代警察署裏磐梯駐在所調べ

北塩原村の行政



職員数の推移

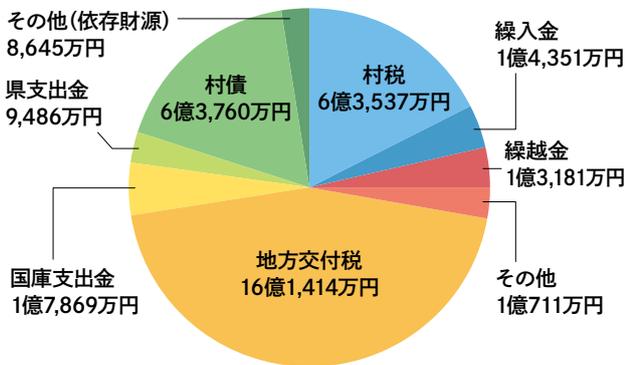
(単位:人)



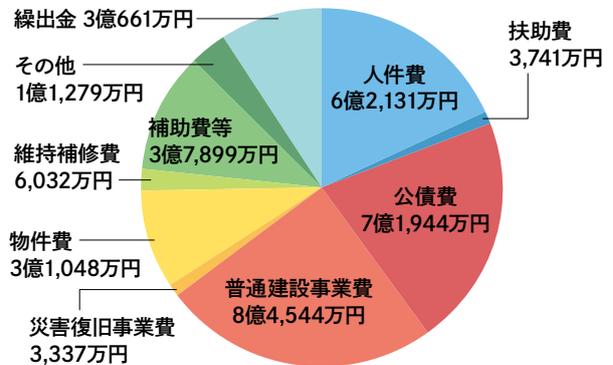
一般会計決算額

(単位:万円)

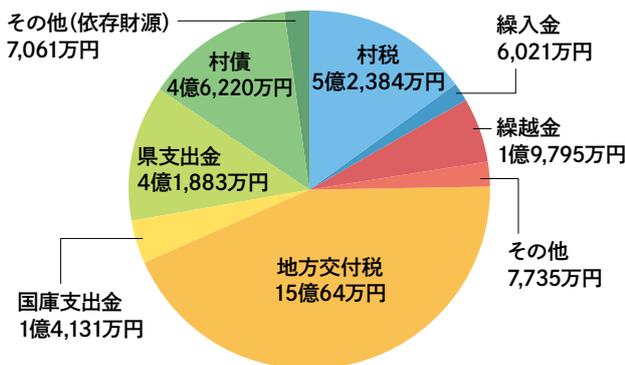
平成14年度【歳入】合計36億2,954万円



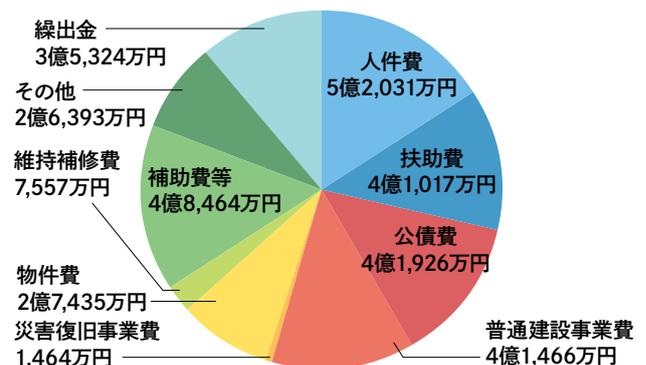
平成14年度【歳出】合計34億2,616万円



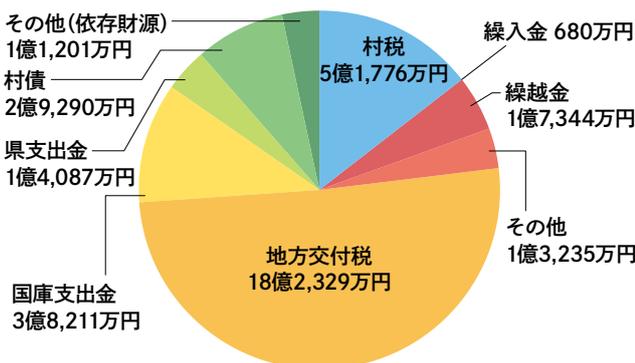
平成24年度【歳入】合計34億5,294万円



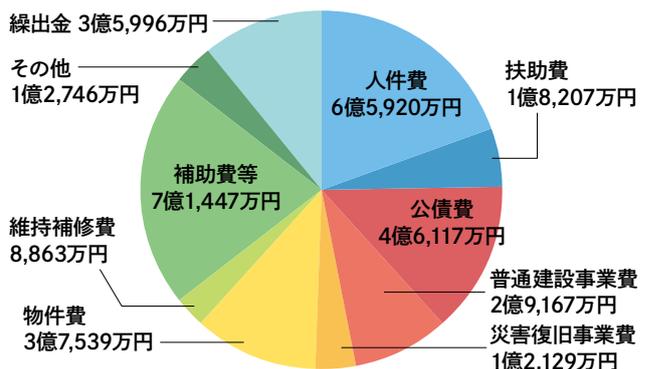
平成24年度【歳出】合計32億3,077万円



令和4年度【歳入】合計35億8,153万円



令和4年度【歳出】合計33億8,131万円



70周年記念ロゴマーク



やまぐち まなめ
制作：山口 真芽 さん（北塩原村松陽台）

70周年記念キャッチフレーズ

共に歩み みんなで創る 北塩原村70年

うらき りょうすけ
浦城 亮祐 さん（奈良県奈良市）

行きたい村から 住みたい村へ

なかしずか のりお
中静 憲夫 さん（新潟県長岡市）



福島県北塩原村村制施行70周年記念誌

【令和6年7月発行】

発行責任者 | 遠藤 和夫

発行・編集 | 福島県北塩原村役場

〒966-0485 福島県耶麻郡北塩原村大字北山字姥ヶ作3151番地

TEL. 0241-23-3111(代表)

URL <https://www.vill.kitashiobara.fukushima.jp/>

印刷 | 北斗印刷株式会社

